

1 運営理念 「人づくり・夢づくり」

2 教育目標 「自ら未来を拓き、新たな時代をつくる板津人(びと)の育成」

3 目指す生徒像 (9年間の学びを通して願う子供の姿=板津人(びと))

- ・自ら考え判断し、主体的に行動できる生徒(主体性)
- ・多様性を尊重し他者と協働し、よりよく課題を解決できる生徒(他者理解・協働性)
- ・社会に積極的に参画したり、貢献したりできる生徒(社会参画)
- ・自己の生き方を考え、夢や目標に挑戦していく生徒(自己理解・将来展望・挑戦)

合言葉
 ~誇り高き板津人に~
 『自ら』『共に』『挑む』

4 魅力ある学校づくりキーワード 教師「子どもの声を聴く！」 生徒の意見・気持ち・悩み・未来への希望で学校をつくる！
 生徒「自分たちの学校は自分たちの手で！」自分たちの声により、よりよい学校をつくる！

5 重点目標

- 子ども一人一人を「自立した(自分で考え、判断して、行動できる)学習者」に育てる。=生きることは学び続けること
- ・子どもの学びを導き、促し、支え、励ます。自分の学びの階段を自分でつくる力をつける。
 - 重要なことを子どもに任せる。
 - 子どもの意見を最後まで聞く、動き出すまで待つ、動き出したら最後まで見守る。
 - 子ども自身が考え行動する中で生じる疑問や気づきを大切にする。

6 目標実現のための具体的な手立て

(1) 組織的な学校運営 <ベクトルを一つに>

- ① 危機管理の「サシスセソ」を基本に「報連相」を徹底する。複数で対応しチーム一体となって取り組む。
- ② 温かい雰囲気や協働性を高める。「やってみよう！ありがとう！なんとかなる！ありのままに！」
- ③ 課題・目標を共有し職員全員が参画意識を持ち、主体的に学校づくりに取り組める組織体制を構築する。
- ④ 自己の役割を認識した校内OJTを組織的・計画的に推進し、人材の育成・発掘を図る。
- ⑤ 機能的・協働的な組織づくりと自身の働き方の見直しにより、教師も生徒も生き生きとした姿につなげる。

(2) 学ぶ力の育成 <子どもが学ぶ・学び合う>

- ① 子どもが目標達成する授業実現に向けた個別×協働×ICTをより進化・深化させるため教科部会の充実を図る。
- ② 主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、学びは我が事と捉え夢中になって取り組む授業実践を推進する。
- ③ 子どもがどのように学ぶかを追究し、生徒自身が判断・選択しインプットとアウトプットを繰り返す授業実践。
- ④ 学びに向かう集団づくり(安心できる温かい集団づくり)を計画的に実施し、学びの基盤をつくる。
- ⑤ 総合的な学習の時間を充実させ、ICTを活用したプレゼンテーション力を育成する。
- ⑥ 授業に生きる家庭学習の在り方を模索し、学習習慣の定着を図る。

(3) 豊かな人間性の育成 <十人十色・自分色>

- ① 子どもが主体となる活動を活性化し、可能性を信じ、認め、引き出す場の設定と仕掛けを準備する。
- ⇒ 学級活動は合意形成による集団目標決定の場 → 課題解決は「自らの手で」自分の声による学校づくり
- ⇒ 学校行事による自己理解・他者理解 → 自立・共生・創造・感謝・考動力へ
- ⇒ 定期的な「あすいたミーティング」(明日の板津を考える会)により子どもの声を聴き、実践につなげる。
- ② 特別な教科道徳の充実を図ると共に「心のテーマ」を共有し「よりよく生きる力・人間力」の基盤を育成する。

(4) 健やかな心身の育成 <一人を大事に>

- ① 個別に配慮を必要とする生徒に対し、保護者や関係機関と連携し、思いに寄り添った指導に努める。
- ② ネット環境下でのゲーム等への関わり方も含め、より良い生活習慣の定着を図る。
- ③ 目的意識を持たせ、心身の発達にふさわしい活力ある部活動運営に努める。

(5) 家庭・地域との連携 <発信して巻き込む>

- ① 各種たよりやHP等を通して、開かれた信頼される学校づくりのための情報発信に努める。
- ② 保護者・地域と連携し、挨拶の励行や交通ルール・マナーを守る意識を高める。